

## 1 研究主題 「地域を知り、教材化するための実地研修」

## 2 研究の概要

- (1) 期 日 平成27年8月26日(水)  
 (2) 会 場 有限会社 茂野タンス店  
 (3) 参加者 社会科部員13名(小学校8名、中学校5名)  
 (4) 内 容 見学：加茂桐箆笥の製造など  
 講師：有限会社 茂野タンス店 社長 茂野 克司 様



## 3 研究の実際

有限会社茂野タンス店は、創業は大正15年で経済産業大臣指定伝統的工芸品加茂桐箆笥を生産している。茂野タンス店で作られたタンスは、皇室献上品にもなったことがある。このように素晴らしい製品が生産される様子を、製造過程ごとに1つ1つ丁寧に説明していただいた。

## ○材料について

材料の桐は国内産(新潟、福島、山形)を使用している。他の木は成木するまで50~100年ほどかかるが、桐の木は20年ほどであり、はやく材料にすることができる。とても軽く、湿気や虫から衣服を守り、火に強いことが特徴の素材である。

桐は500円玉やパスポートの模様、菊花紋に準ずる国章になっている。桐丸太として仕入れ、切り出して板材(桐板)にする。

## ○板干しについて

桐板は長い間雨ざらしの土地で自然乾燥する。こうすることで渋抜きされ、使用しているうちに狂いがでないようにっていく。雨ざらしする期間は、厚さによって1~3年ほどである。

## ○製造について

- ① 自然乾燥された桐を選別し、微妙な調整を施す。
- ② 桐の木目や色を考えてより分け、大きさをそろえて板組みしていく。
- ③ 接合した板材を各部分の寸法取りができる大きさに加工していく。
- ④ 外枠、引出し、扉などの部分寸法に削り分を付けた大きさに裁断する。
- ⑤ 裁断した各部分にカンナ掛けを行い、寸法に合わせて削って、丁寧に仕上げる。
- ⑥ 外枠は木釘を打ってしっかりと組み立て、ろう磨きをする。
- ⑦ 各部分に錠、引手などの金具を取り付けて完成。

上記の手順のように、タンス職人が板を切って組み合わせ、カンナで丁寧に削っていく。40歳くらいの職人でもこの世界では若手で、80歳以上も現役で働いている。職人の長年の経験が必要な過程がいくつもある。

## ○販売について

国内需要は減少の傾向があるが、海外販売に力を入れ需要が増えている。ミラノ国際家具見本市などに出品し、海外での知名度も上がってきている。伝統的桐箆笥のほか、モダン桐家具、桐玩具、桐小物などを近年作っている。モダン桐家具はデザイナーと共に考えて作り、高価な絵画などをしまうなど、使い方も多様になってきている。



## 4 成果と課題

加茂市を代表する工業製品のの一つは箆笥である。地域で素晴らしい箆笥を作っている茂野タンス店を見学させていただいたことは、地域にある工業製品の素晴らしさや職人の工夫や努力について理解を深めるよい機会となった。工業の学習はもちろんのこと、キャリア教育などでも取り上げることができ、様々な学年で学習することができる。

今回の研修は、地域素材の教材化を図る上で、有意義な研修となった。